

「救いたい心」をつむぐコミュニケーションマガジン

赤十字

5

MAY 2020 NO.960

NEWS

Japanese Red Cross Society NEWS
<http://www.jrc.or.jp>

令和2年5月1日(毎月1日発行)
赤十字新聞 第960号
昭和24年9月30日 第三種郵便物認可



わたしも赤十字 献血の支援者

岡崎 悠 (おかざき・ゆう) さん【p.4でご紹介】

特集

◎緊急事態宣言発令下でも、日赤の果たす使命は、不変です。

救うを託されている。

人間を救うのは、人間だ。



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3 TEL: 03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

 **日本赤十字社**
Japanese Red Cross Society

「緊急事態宣言」発令。危機的状況に陥った日本で、日本赤十字社の奮闘は続く

救いを託されている。

【武蔵野赤十字病院】



クルーズ船から下船した新型コロナウイルス感染症患者(以下、新型コロナウイルス患者)の治療に当たった武蔵野赤十字病院。感染症指定病院として現在も新型コロナ患者のための病床を増やし、感染症以外の科からも応援が入るなど、全職員が最前線の医師・看護師を支える体制で治療に当たります。「コロナの患者さんだけでなく、全ての患者さんの治療にベストを尽くすのは医療従事者として当然のこと。今は大変な時期ですが、私たち医療従事者の使命や仕事は何も変わりません」。同院の若林福美副院長 兼 看護部長は力強い声でそう述べました。

© Atsushi Shibuya/JRCS

「いかに勝つかではなく、いかに負けないか。コロナとの極限の戦いが続いている」

「まさにコロナとの戦争だ」。そう語ったのは日赤医療センター(東京)呼吸器内科部長 出雲雄大医師。増え続ける患者の対応に追われる日赤医療センターでは新型コロナ患者受け入れの病床を拡張し続け、ついに3つの病棟(救急集中治療室含む)を丸ごとコロナ対応の病棟に変えました。感染防止に必須の医療資材も底をつきそうな中、「部下や看護師に、武器を持たずに戦いに行けとは言えない。前線に立つ医療者を守れなければ、医療は崩壊してしまう」と出雲医師。多くの不安を抱えながらも、医師・看護師たちは24時間体制の診療を続けています。

医療センターでは、救急体制を一部制限し、新型コロナ患者の対応に注力しています。しかし、コロナ感染の疑いがある患者の受け入れ要請は切れ目なく入電、すぐ満床になってしまうため、すべてを受け入れることができません。

「どこも望み薄なんです…なんとか1床お願いできませんか?」同院の救急科 近藤祐史医師は、どうしても自院で対応できない患者のために、他の受け入れ先を探します。救急搬送を行う東京消防庁と協力し、4時間かけて120院に電話をしましたが受け入れ先を確保できないケースもありました。数々の災害で真っ先に被災地に駆けつけてきた近藤医師は、目の前の患者を救えない状況に追い込まれながらも、最前線に立ち続けます。心身ともに極限状態が続く医療現場。コロナウイルスとの戦いは医療従事者たちの総力戦になっています。

【日本赤十字社医療センター】

a: N95マスク、防護ガウン、アイシールド、キャップ、手袋、フル装備で診療にのぞむ出雲医師 b: 日赤医療センター内の感染症対策本部で、対応に追われる医師・看護師たち



日赤医療センターの新型コロナウイルス感染症に対する取り組みを紹介

急速な感染拡大による病室の不足や医療資材の不足など、医療現場の生の声を取材いただき、2020年4月14日(火)放送のNHK「クローズアップ現代+」にて紹介されました。放送の内容は下記URL、左バーコードよりご覧ください。



◀ <https://www.nhk.or.jp/gendai/articles/4404/index.html>

©NHK

「献血」を止めない。血液を待つ人たちがいるから

新宿駅東口の新宿アルタ前。普段は多くの人でにぎわうこの場所も、政府の外出自粛要請によって人出が減少。緊急事態宣言発令後はさらに激減し、街は閑散としています。そんな中でも、新宿アルタのすぐ近くにある新宿東口駅前献血ルームは休みなく業務を遂行中。献血ルーム職員が献血の呼び掛けを行えば、いつもは雑踏でかき消される声が、人のまばらな街に響き渡りました。

「緊急事態宣言が出されても、献血のためだけに新宿に来られる意識の高い方々がいてくださり、そういう方々になんとか支えられています。しかし、東京都内は献血者の減少が続いているので、もっと献血のアピールを頑張らなければ…」と、献血ルーム職員は語りました。

外出自粛や在宅勤務が推奨されていますが、輸血を必要としている方たちの命を救うために献血ルームや血液センターは輸血用血液を安定的に供給するという使命があります。職員一人一人が緊張感を持って感染予防に努め、消毒や清掃の徹底や、待合席の間隔をあけるなど安心して献血を受けられる環境作りを行っています。献血へのご理解とご協力をお願いいたします。

ルーム内の密集を避けるため予約をお願いしています。詳しくはお近くの献血ルームにお問い合わせください。



献血の呼び掛けを行う職員(新宿東口駅前献血ルーム)



献血に来た方には体温測定を実施(献血ルーム新宿ギフト)

あの時、あの場所にいたのは、日赤救護班でした

日本赤十字社は、新型コロナウイルス感染症への対応として、横浜港に停泊したクルーズ船や、武漢市からの帰国者一時滞在施設への救護班派遣など、政府からの要請に基づき、迅速に支援活動を展開して参りました。なお、活動に従事した延べ255人にのぼる職員の中から、感染者は一人も発生しておりません。

厚生労働省からの派遣依頼を受け、横浜港に停泊したクルーズ船の乗客乗員の健康管理を目的に2月10日～3月1日の期間、救護班などを派遣。船内の主な言語は外国語であり、日赤救護班の海外救援の経験が生かされました。

武漢市からのチャーター便による帰国者およびクルーズ船からの下船者(PCR検査陰性)の経過観察を支援するため、一時滞在施設に医療職員を派遣。施設に滞在された方々の健康相談・健康チェックなどに従事しました。

●派遣職員数 延べ **142** 人 救護班: 67人 DMAT(災害派遣医療チーム): 75人

●派遣職員数 延べ **113** 人 赤十字病院18施設から派遣



〈左写真〉大型クルーズ船に乗り込む日赤救護班。〈右写真〉一時滞在施設での活動風景。これらの業務に従事した職員は派遣終了後14日間の経過観察を行いました



TOPICS 01

赤十字運動月間「救うを託されている。」

毎年5月の「赤十字運動月間」では、赤十字の理念や活動へのご理解とご協力を呼びかけています。

今年は「救うを託されている。」をキャンペーンスローガンとし、“支援して下さるあなたも赤十字の仲間”であることをよりわかりやすく多くの方に伝えていきます。テレビCMや各動画を通じて赤十字の活動を身近に感じていただき、活動に共感していただける“赤十字の仲間”を増やしていけたらと考えています。

自然災害の激甚化と頻発化や、世界中にまん延している新型コロナウイルスにより、人びとの平穏な生活が脅かされています。昨年の台風第19号豪雨災害では、日本赤十字社は延べ700人を超える医療救護班を派遣し、各地に支援物資をお届けし、多くのボランティアも活躍しました。

また、平時においても、日赤はさまざまな活動を通して、人を救う活動を続けています。そのような活動に期待して、信頼して、託して下さる多くの方に支えられ、143年の歴史を築いてまいりました。誰もが抱く「救いたい」という気持ちをあらゆる方法で実践・実行する赤十字の活動へ、ご参加、ご支援をよろしく願っています。

campaign.jrc.or.jp/gekkan
こちらの動画は日赤の「キャンペーンwebサイト」からご覧いただけます！

テレビCM 30秒・15秒

「あなたの手となり、ぬくもりとなり」

救護される人の目線で医師や看護師、ボランティアの活動を伝えるテレビCM「あなたの手となり、ぬくもりとなり」篇。「救うを託されている。」赤十字の活動をリアルに感じていただくことを目指しました。新型コロナウイルス対応についてもメッセージを掲示します。



5月は赤十字の理念と活動を一人でも多くの方に知っていただくための運動月間です。今年は、新型コロナウイルスによる不安の連鎖を断つ！赤十字のメッセージも発信します。

「理解促進」ネット動画

「赤十字って何をしているの？」篇他

赤十字の活動やご寄付の方法、実際の使い道などを幅広い方に認知してもらうために制作しました。自然災害の現場に駆けつけた医師や看護師、ボランティアの人数や、そこで救われた方々の声、ご寄付で何ができるのかなど、赤十字の活動を身近に感じてもらえる内容です。



新型コロナウイルス啓発動画

「ウイルスの次に やってくるもの」

ウイルス感染の脅威が世界中で広がる中、知らない間に心の中で育ち、人びとを苦しめる存在があります。一人一人がその存在に気づき、自ら防御し、気づけていない人には教えてあげてほしい。新たな「感染予防」を啓発する日赤オリジナルのアニメーションです。



わたしも赤十字 今月の表紙

赤十字にはさまざまな形で赤十字の活動に参加する支援者がいます。全国の支援者の中から毎月お一人を、温かいメッセージと共に紹介します。



献血の支援者
岡崎 悠 (おかざき・ゆう) さん
東京都中野区/33歳/飲食店経営

初めての献血。僕も誰かの役に立てることがあった

コロナの影響で血液が不足しているというネットのニュースを見て、今日初めて献血に来たんです。今までも駅前献血を呼びかけているのは見かけていましたが、予定があったりでなんとなくスルーしていました。献血することで少しでも僕が誰かの役に立てるなら、という気持ちで電話予約をしてから来ました。

献血ルームはきれいなオフィスみたいな印象ですね。検温やマスク、ソーシャルディスタンスの確保など、コロナ対策もしっかりやっていて安心できました。400mL 献血をしましたが、採血もチクッとしかしたけど、思ったより大丈夫でした。対応も丁寧で親切、漫画や飲み放題のドリン

クなども充実しているし、気軽に来られるスペースなんですね。受付、問診、採血のそれぞれの場所で同じ質問をされたんです。見落としがないように三重にも聞いてくださっているんだと知って、すごいなと感じましたね。今後も機会があれば献血を続けていきたいなと思っています。血液が足りなくて困っているんだたら行こうと考えている人はきっとたくさんいるはず。実際に献血してみても、人のために役に立っていることをすごく実感できたし、すがすがしい気分になりました。僕はSNSをやっているのでも、献血に来たことを発信して、まわりの人たちにも献血のことを知ってもらえたらいいなと思います。

献血するあなたも 赤十字です

献血Web会員サービス **ラブラッド**

さまざまな特典が受けられる便利なWeb会員サービス「ラブラッド」に、ぜひご加入ください！定期的に血液を供給するために、皆さまのご協力をお願いいたします。

ラブラッド会員になると…

- 全国すべての献血ルームのWeb予約が可能になります
- ポイントをためて記念品と交換できます
- 血液の検査結果などを含む献血記録がいち早く分かります
- 会員限定オリジナルデザインの献血カードに交換できます
- メールやLINEで会員限定のお知らせやご案内、献血の依頼などが届きます

その他、特典いろいろ！
会員登録はこちらから
<https://www.kenketsu.jp/>

3.11 あれから10年を生きて 希望の犬～ひと目、あなたに会いたい

第2回 東日本大震災の発生から2021年3月で10年。来年の3月号まで「3.11」から人生を変えた人々の物語を毎月連載します。

岩手県上閉伊郡大槌町 **佐々木光義**さん

約100体×6つの安置所＝おおよそ600体。私が故郷の岩手県大槌町にたどり着いた初日に対面した、ご遺体の数です。袋を開けて、お顔を見て、おやじ、お袋の顔の特徴と一致するか確認する。人間って不思議ですね。ああいう時、悲しみとかの感情が消えてしまうんです。それから約3週間、毎日、各安置所を回って新しいご遺体を確認しつづけたが、両親の遺体は見つかりませんでした。

大槌町に入れたのは発災後1週間ほどたってから。ニュースでは大槌の情報が流れなくて、たどり着いて初めて、現実と直面しました。町全体、生まれ育った実家も、跡形も無くなってた。避難所へ行き、そこで兄と再会。兄の口から、両親はどの避難所にもいないし、消息が分からないと聞きました。家族同然にかわいがっていた飼犬も行方不明になっていて…。うちのおやじは脳梗塞の後遺症で片足が不自由でした。近所の人の話では、皆が避難中、おやじ一人を置いていけないとお袋も家に残ってしまった。ああ、二人とも助からなかった、と感じました…。

発災から約1年後、勤めていた会社を辞め、神奈川県葉山の家を引っ越し、大槌に戻りました。生活が落ち着いたころ、ふと、犬が飼いたい。そして、犬を飼うなら災害救助犬に育てたい、と考えたのです。アメリカの9.11テロの時には、災害救助犬が生存者を探すのに大活躍したとのこと。私は葉山にいた時から赤十字救急法の指導員として講習に行ったり、防災ボランティアをしたり、人の役に立てることが好きだったので、人を救える犬を、という発想が、自然と湧きました。

1年に及び、2回目の挑戦で災害救助犬の試験に合格しました。

2016年に岩手県で発生した豪雨災害の被災地で、ユキは行方不明者の捜索を行いました。川が氾濫し行方不明となった方が見つからないとのニュースを見て、警察に協力を申し出たのです。捜索に参加できたのは発災後3週間過ぎ。行方不明者の生存は絶望的でした。災害救助犬が死後数週間がたったご遺体を探すことは「賭け」でした。それでも、もしかしたら…という思いがありました。被災地に着き、警察の捜索隊と話していると、「災害救助犬が来てくれた…ありがとう！」と涙ながらに話しかけてくる方が。行方不明者のご家族でした。災害救助犬に、こんなに感激されるなんて…。驚くと同時に、その気持ちを私は知っている、と感じました。

探しても探しても見つからない家族。もう助からないのは分かっている。それでも、なんとか見つけ出してあげたい。ひと目、会いたい…。特別な訓練を積んだ災害救助犬なら、見つけてくれるかもしれない——災害救助犬は“希望”の存在なのだ——。



豪雨災害の被災地で行方不明者を探す佐々木さんとユキ (写真提供: 佐々木光義さん)

残念ながら、その捜索では行方不明者を見つけられませんでした。しかし、これからも誰かの悲しみを救うために役立たせたいと、ユキの災害救助訓練を続けています。

こうして、ゴールデンレトリバーの子犬「ユキ」が家族の一員になり、生後9カ月から横浜の訓練所でトレーニングをスタート。ユキの訓練は



千葉県 **新型コロナに負けない！
血液を待つ人たちのために**

外出自粛の要請により、献血者数が減少し続けています。4月3日、事前に東金市赤十字奉仕団が熱心な働き掛けを行った結果、東金市役所での献血に106人もの協力者が来場。血液確保に大きな貢献となりました。奉仕団の大坪綾子委員長は「病気治療で血液を待っている方たちがいる。赤十字奉仕団として自分たちができることをしようと思った」と語りました。



人との距離を開け、感染防止に十分な注意を払い献血が行われた

**千葉県
熊本県** **ドローンで空からも救援！
災害時の物資運搬や
空撮の活用に向け、一歩前進**

ドローンを活用した取り組みが各地の日赤支部でスタートしています。熊本赤十字病院は2月26日、「豪雨による河川の氾濫で孤立した山間部の病院に、血液や医療資機材を輸送する」という想定で、共同研究機関とともに実証実験を実施。日赤千葉県支部では災害発生時の被害状況の確認などを想定して、ドローンによる空撮研修を2月に行いました。



医療物資をドローンへ積み込み、いざ離陸！（熊本赤十字病院）

静岡県 **ハートラちゃんから
ワクワクをプレゼント！
有功会が幼稚園に絵本を贈呈**

日赤静岡県有功会は設立50周年記念事業および青少年赤十字支援事業として、合計480冊の絵本を県内の青少年赤十字加盟園24園へ贈呈しました。同会では平成17年度より毎年1園につき絵本1冊を寄贈してきましたが、設立50周年を迎えた昨年度は1園につき20冊を用意。絵本は「ハートラちゃんからのプレゼント」と書かれた箱に入れられ、園児たちのもとに届けられました。



園児たちは「読んで！」と大量の絵本に大喜び！（静岡若葉幼稚園）

熊本県 **おうちで元気に過ごそう！
栄養&健康サポートの
動画を配信中**

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で外出自粛が求められる中、熊本健康管理センターでは、自宅での健康管理をサポートする動画を3月からYouTubeで配信中。運動指導士による「家庭でできる“5分宅トレ”」では運動不足解消などに役立つトレーニング法を、管理栄養士による「時短♪カンタン♪ヘルシーレシピ」は栄養バランスを考えた簡単レシピを紹介しています。



動画を見ながら楽しく宅トレ！こちらから動画が視聴できます↑

**100年以上の時を経た今も…
世界に届く「昭憲皇太后基金」**

毎年4月11日のご命日にあわせて「昭憲皇太后基金」が配分されます。この基金は、1912年に昭憲皇太后が国際赤十字の平時事業を奨励するために寄贈された10万円（現在の3億5000万円相当）を基に創設された世界最古の開発協力基金です。今年度は14カ国の赤十字・赤新月社が手がける支援事業に対して、総額約4440万円を拠出しました。第1回から第99回の今までの累計額は約16億2840万円、配分先は170の国と地域にのびます。

今年度の支援として、アフリカのシエラレオネ赤十字社では、献血と緊急時の産科ケアへの取り組みで、特に妊婦や乳児が安全な血液製剤を利用できるようにし、アジア大洋州ではトンガ赤十字社が取り組む、障害のある子どもたちの安全な移動を支援するなど、各国の状況に合わせた事業に基金が活用される予定です。詳細は日赤ホームページをご覧ください。



↑日赤のサイトで
ご覧ください。

昭憲皇太后が奨励した「平時の人道支援」という御心は、災害が続く現在も世界の人の心に深く響いています

常任理事会報告(開催中止)

令和2年4月17日に本社において開催予定だった常任理事会は新型コロナウイルス感染症の拡大のため、中止となりました。

全国 **手作りマスク、心を込めて…
全国の赤十字奉仕団員が自発的に活動を展開**

全国でマスク不足が解消されず、不安の声が高まるを受けて、各地の日赤奉仕団では手作りマスクを提供する活動が広がりました。北海道の恵庭市赤十字奉仕団は、4月からの新学期にあわせて同市の小学校1年生全員に行き渡る650枚のマスクをわずか3日間で作成。千葉県の勝浦市赤十字奉仕団では、保育所・こども園児と小中学生全員に1人2枚のマスクを届けるべく、婦人会や老

人クラブ連合会と協力して約2200枚を手作りしました。愛知県の大治町赤十字奉仕団は、同団に寄贈された綿布を活用して作成、保健センター利用者の母子向けに寄贈しました。また、滋賀県では東近江市能登川赤十字奉仕団が手作りマスクを善意銀行に寄贈し、同県の高島市赤十字奉仕団は市を通じて福祉施設に780枚を寄贈、マスクの作り方を動画にしてYouTubeでも公開しました。



北海道 感染予防に注意を払ってマスク製作(北海道)。町長にマスクをお渡しする赤十字奉仕団(愛知県)。寄贈されたすてきな生地でも喜んでもらえるマスクに(滋賀)



愛知県



滋賀県

福島県 **8年間・64回にわたる
復興支援の活動記録誌
「私たちは忘れない」発刊**

日赤福島県支部の喜多方市赤十字奉仕団は、東日本震災の翌年から会津若松市の長原仮設住宅への訪問を続け、「にこにこお楽しみ会」を毎月開催。避難生活を送る大熊町民の方々と心を通わせてきました。このたび、その活動を記録した「私たちは忘れない」を発刊。この記録が災害後の復興期におけるボランティア活動の一助になることも期待されています。



※昨夏夏の開催風景
「たくさんの人に支えられて続けられた活動です」と奉仕団委員長

**世界赤十字デー
レッドライトアッププロジェクト**

世界赤十字デーの5月8日を中心に、全国のランドマーク施設が赤い光(赤十字のシンボルカラー)で照らされます。コロナ禍により世界中が苦境に立たされている今、苦しみに寄り添う赤十字の精神に基づき、日本、そして世界に向けて熱いエールを送ります。今年度は家の中から、全国各地の赤い光のメッセージをお受け取りください。



草津温泉 ※4月22日時点の開催予定。開催は中止になる可能性もあります。

全国の皆さんに
元気になってもらいた
い。各温泉地を代表する
思いで湯畑を赤く
灯します

「赤十字を応援！」プレゼント A 戸郷翔征 選手 読売ジャイアンツ

サイン入りボール&色紙



上記プレゼント希望者は、右記WEBサイトにてご応募ください。

「野球が大好きな子どもたちへ。今は友達と一緒に練習できないかもしれませんが、バットスイングや坂道ダッシュなど、一人でできる練習はたくさんあるし、ライバルと一番差がつく期間だと思います。僕もプロ野球開幕に備えてしっかりと練習して、早く皆さんと球場で会えることを楽しみにしています。そして野球ファンの皆さまへ。いろいろなことが制限され、イベントや大会が中止になり、残念なことが多いと思いますが、今はとにかく自分の健康と大切な人の命を守るために、一緒に耐えましょう。日本が苦しい状況の中、多くの人々へ元気と笑顔を届けるこの企画に参加させていただき、大変光栄です。日本赤十字社の皆さま、一緒に頑張りましょう」

とごう・しょうせい©2000年4月4日生まれ。宮崎県出身、AB型。2018年ドラフト6巡目で聖心ウルスラ学園高から読売巨人軍に入団。入団1年目の昨年9月27日対DeNA25回戦(東京ドーム)で初勝利。最速154キロのストレートを武器に今季から先発ローテーションの一角を期待される。

「赤十字を応援！」プレゼント B パートナー企業紹介 vol.2 株式会社カネウ

豊洲市場も、野菜生産者も、新型コロナと闘っています！



豊洲市場の新店舗前に立つ森社長

創業113年を誇る野菜の仲卸、株式会社カネウ。歴史ある築地市場(現・豊洲市場)の中でも老舗の野菜卸として厚い信頼を得てきました。通常は有名レストランやホテルなどに提供し、一般の消費者に販売することはありません。しかし今回は特別な思いを持って野菜セットをご提供いただきました。(株)カネウ 森亮太社長のメッセージです。「緊急事態宣言下でも、首都圏の台所を守る豊洲市場は営業を続けています。市場全体が衛生面により一層の注意を払い、感染症予防策に努め、日赤の皆さんが血液の供給や医療を止めないよう奮闘するのと同様、コロナウイルスと闘っています。そして、野菜の生産者も飲食店からの発注が激減する中、闘っています。普段は見えない絆ですが、私たちはつながっていて、今、コロナという敵に立ち向かっている。みなさん、元気と勇気を出し、この困難を乗り越えましょう！」

有機野菜セット

5名さまに
築地の仲卸が自信をもっておすすめする新鮮野菜。3~4人家族にちょうどいい分量です。

※写真はイメージです。収穫のタイミングにより内容は変わります。

インターネットアクセス www.jrc.or.jp/contribute/ 検索

上記プレゼント希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤赤十字NEWS 5月号を手にした場所(例/献血ルーム) ⑥5月号に関するご意見・ご感想

郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS 5月号プレゼント係 FAX / 03-6679-0785 メール / koho@jrc.or.jp (件名「赤十字NEWS 5月号プレゼント係」) 5月29日(金)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

こちらからも応募できます

WORLD NEWS

新型コロナウイルスとの攻防

感染拡大の新型コロナウイルス 世界中の赤十字が支援を継続中

世界規模で猛威をふるい続けている新型コロナウイルス感染症(COVID-19)。世界中の赤十字・赤新月社が感染予防や感染拡大を食い止める活動を続けています。

緊急救援からこころのケアまで
各地の実情に合わせた支援を展開

アジア地域では、大韓赤十字社(韓国の赤十字社)が大規模な救援物資の配布を行っており、その中にはより支援を必要とする6000世帯以上に向けた食料やマスクなどのセットも含まれています。また、ネパール赤十字社はSNSやラジオなどを活用し、啓発・予防活動の強化に注力しています。ヨーロッパでも感染が広がる中、特に感染者数が多いスペインの赤十字社では、救急車サービスやホームレス支援シェルター、DV被害を受けている女性への支援やこころのケアなど、広範囲におよぶサポート体制を敷いています。感染拡大が深刻なアメリカでは、アメリカ赤十字社が政府からの依頼のもと、隔離中の中国からの帰国者に対して毛布や食料、子ども用玩具の支援を実施。新型コロナウイルスの感染拡大は、今もなお予断を許しません。世界各地の赤十字・赤新月社はお互いに連帯しながら、今後も人々に支援を届けていきます。



紛争で家を追われ狭い避難所やキャンプで密集状態で暮らす人々。清潔な水やせっけんなどの物資の不足に苦しむ人々は、より深刻な脅威にさらされている

〈フィリピン〉フィリピン赤十字社は安全な水にアクセスできない地域に「手洗いステーション」を設置。改造したドラム缶に水道水を供給する蛇口を取り付け、こまめな手洗いをイラストで呼びかけている

〈バングラデシュ〉赤十字ボランティアたちが、手洗いやせきエチケットの詳細が書かれた新型コロナウイルス感染症予防のための啓発リーフレットを50万部配布した

〈カザフスタン〉手作りマスクを作っているカザフスタン赤新月社のボランティア。ひとり暮らしの高齢者に食料品を届ける活動もしており、感染のリスクを最小限に抑えるため配達時には非接触に留意している

〈イタリア〉3月25日、ホームレスと貧しい人々のためのシェルターを巡回するイタリア赤十字社のボランティア。健康診断だけでなく、感染予防などの意識向上も会話しながら働きかけている

〈オランダ〉地域にある病院の負担を軽減するため、近隣のイベントセンターに一時的な医療ユニットを用意。約280台のベッドが設置されボランティアが患者への食事の提供などにあたっている

〈IFRC〉国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)はCOVID-19との戦いの最前線に立つ世界の赤十字ボランティアの活動やメッセージを全世界に向けて発信しています。



数字で見えた! 世界で生かされる皆さまのご支援

世界中の災害や紛争から、人々の命と健康を守る日赤の国際活動。皆さまの寄付がどのように世界で役立てられているのかを、数字でわかりやすくお伝えします。

2万 9528 人



紙芝居のようにイラストを使って「水」の大切さをわかりやすく説明

カンボジアの村人に届け、「水」の知識

カンボジア、バングラデシュ、ラオスなど、アジア大洋州地域では台風や洪水による被害が多発し、開発途上国におけるダメージは計り知れないものがあります。そこで日赤は2011年から、人々の暮らしや命に直結する「水」に関する支援事業を継続的に行っています。

現地の村人たちに水と衛生の重要性を伝えるカンボジア赤十字社の衛生教育セッションは毎回盛況で、女性や子どもたちも積極的に参加し、**カンボジアだけで「水」に関する知識を習得した人は、2018年度の6696人から2019年度は2万9528人と激増しています。**セッションでは、災害時だけでなく日常生活での「水」との付き合い方も伝えています。災害に対しても、水に対しても、常日頃から備えておく心構えが重要なのです。